

2021年 大納会

2021年12月30日、この1年の取引を締めくくる大納会を行いました。
福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、約30名の市場関係者の皆様にご出席いただき、
長理事長の挨拶と、引き続き理事長の音頭によって、くる年の平穏と景気の拡大、証券界
の益々のご繁盛、ご列席者の皆様のご健勝を祈念して恒例の「博多手一本」を入れました。



理事長挨拶
(2021年大納会)

2021年の大納会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、この1年、会員証券会社の皆様をはじめ、市場関係者の皆様、大変お疲れ様でございました。

おかげをもちまして、本日、本年の取引所業務を滞りなく終了し、このように、無事、納会を執り行うことができますことに感謝し、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、この1年を振り返るに当たり、まずは残念なことを申し上げますと、今年も新型コロナウイルス感染症抜きでは語れない1年となりました。福岡県内においては、1月から2月、5月から6月、8月から9月の3回にわたり緊急事態宣言の対象地域となり、振り返ると1年の約3分の1は緊急事態宣言下であり、自粛の続く我慢の一年でありました。

とはいえ、明るい話題がない一年であったかというところ決してそうではありません。

1年遅れで8月に開催された東京オリンピック2020では、日本選手は、金メダル27個を含む58個という史上最多のメダルを獲得しました。

また、アメリカ大リーグでの大谷選手、日本将棋界での藤井棋士の活躍には多くの皆様がテレビにくぎ付けとなりました。

足元の経済情勢も、政府は、コロナ禍による「厳しい状況が徐々に緩和されていく中で、このところ持ち直しがみられる」としております。

福岡市に目を転じますと、統計で福岡の元気な面が確認された1年でありました。

2020年国勢調査によると、福岡市の人口はついに160万人を超え、5年前と比べた増加率は全国20の政令指定都市のうちトップとなりました。

また、2021年の基準地価で、商業地の上昇率トップ3を福岡市が占めるなど、不動産価格も全国他都市に比べ堅調さを保っています。

このように、今年を振り返りますと、厳しいながらも明るい話題も多かった1年でありましたが、わが福岡証券取引所にとっても、厳しさと明る

さ両面があった1年だったかと思います。

2021年の日経平均株価は、前年を上回る水準で推移し、概ね2万7千円から3万円台の範囲で推移しました。

しかしながら、2021年の本所の売買代金は134億円にとどまり、残念ながら2016年以来5年ぶりに200億円を割り込みました。

一方で、昨年にはなかった新規上場企業は3社誕生いたしました。

また、同じく、昨年、新規入会のなかった九州IPO挑戦隊についても、今年は4社が入会し、IPOチャレンジアカデミーのプログラムも順調に実施することができました。

福証IRフェアのオンライン開催、WEBを用いての各種セミナーや面談活動が徐々に軌道に乗ってくるなど、福証においても新しい仕事の運び方が定着してきた1年でもありました。

来年こそは、コロナ禍が収束し、社会経済活動が正常化することを期待して止みません。

私共、福岡証券取引所は、引き続き、「地域に根差した取引所」として、また、「直接金融市場としての役割」を十二分に果たすため、より一層の努力を重ねてまいります。

皆様方には、来年もよろしくご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

皆様、今年一年、本当にありがとうございました。どうぞ良いお年をお迎えください。